令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	特定非営利活動法人劇場創造ネットワーク
施設名	杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」
内定額	22,782　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　業　名	実施日程	実施会場
公-01	劇場デビューを誘うプログラム	7月19日～8月3日	座・高円寺
公-02	子どもたちの観劇の機会を育むプログラム	8月30日～10月11日	座・高円寺
人-01	劇場創造アカデミー	令和7年4月～令和8年3月	座・高円寺、他
普-01	子どもたちの個性と出会うアートプログラム	令和7年4月～令和8年3月	座・高円寺
普-02	大人のための演劇ワークショップ	令和7年9月3日～11月16日	座・高円寺
普-03	60歳以上の方と戯曲と遊ぶワークショップ	令和7年5月14日～7月13日	座・高円寺

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	12	12	11
	公演事業	4	4	4
	（内、本助成対象事業本数）	0	2	2
	人材養成事業	2	2	1
	（内、本助成対象事業本数）	0	2	1
	普及啓発事業	6	6	6
	（内、本助成対象事業本数）	0	3	3
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　記入してください			

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	291	309	311
	ホール名：ホール1　座席数：238	0	0	0
	ホール名：ホール2　座席数：256	291	309	311
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			
	ホール名：記入してください　座席数：記入してください			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	17,242	19,500	19,662
	公演事業	8,041	9,486	9,016
	人材養成事業	2,831	4,500	4,334
	普及啓発事業	6,370	5,514	6,312
	共生社会事業			
	その他　内容：			
	貸館事業入場者・参加者数	48,404	51,312	46,936
	その他　内容：記入してください	130,387	132,551	143,399
	計	196,033	203,363	209,997
開館日数		360	359	358
施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数））		360	359	358
施設の利用日数		360	359	358
施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数）		100.0%	100.0%	100.0%

備考	館内にあるホールが一斉に保守点検になることがなく、何かしらホールは稼働している為、開館日数＝利用日数となります。

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	4	61	8,041	3	1	0	0	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	25	178	22,472	19	0	3	0	1	2	0
	貸館公演	207	384	48,404	28	32	27	4	77	1	38
	計	236	623	78,917							
令和6年度	主催公演（※1）	4	60	9,486	3	1	0	0	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	24	178	22,836	17	0	2	2	1	2	0
	貸館公演	210	377	51,312	33	40	21	1	74	7	34
	計	238	615	83,634							
令和7年度	主催公演（※1）	4	57	9,015	3	1	0	0	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	27	229	33,951	19	0	3	0	2	3	0
	貸館公演	199	356	46,936	30	31	21	0	84	4	28
	計	230	642	89,902							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

・公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
・入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
・有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	劇場デビューを誘うプログラム	目標値	1,438	86.4%	リピーター率	アンケート回答「初めて」ではない人20%以上	41.0%
		実績値	1,633	88.4%	観客の満足度	アンケート4段階評価上位2段階が70%以上	69.5%
公-02	子どもたちの観劇の機会を育むプログラム	目標値	5,600	75.7%	引率の小学校の先生の事業評価度	アンケート3段階評価上位1段階が75%以上	76.9%
		実績値	5,798	77.6%	観客の満足度	アンケート4段階評価上位2段階が70%以上	93.3%
		目標値					
		実績値					
		目標値					
		実績値					

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	特定非営利活動法人劇場創造ネットワーク
施設名	杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」
内定額	22,782　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	劇場デビューを誘うプログラム	アンケート 4 段階評価上位 2 段階の目標値に僅かにたりなかったが、アンケート未記入の観客も多かったので概ね達成できたと考える。リピーター数も多く劇場デビュー後にも観劇を続けてくれる企画として根付いていると考えられる。また所謂子ども向けとは違い大人も一緒に楽しめる内容であることが、家族連れでの観劇にもつながった。他館の主催公演としての展開も継続されており、劇場デビューを誘いつつ、劇場に繰り返し足を運ぶ切っ掛けとなる企画形態が単発公演の買取りだけに留まらない繋がりをみせており、良質なプログラムを継続していることへの評価として捉えている。
公-02	子どもたちの観劇の機会を育むプログラム	『小さな王子さま』では、以下のような感想がみられた。「小学 4 年生の子どもたちの多くが初めて観る演劇が今回の『小さな王子さま』だったと思います。そんな初めての経験が素敵な劇でよかったです。音や照明、道具の工夫や、動き・セリフなど子どもたちの表現の幅が広がる演劇だと感じました。それぞれの場面で大きく変わる様子に子どもたちの興味が向いているのが表情からも分かりました」「役者の方々の表情、息づかい、しなやかな筋肉所作のひとつひとつが美しく、魂がふるえました。小学生には難しいかと最初は思いましたが、それぞれの年代で素直に感じることに価値があると思います」 『夏の夜の夢』では、以下のような感想がみられた。「支援学級の子どもたちや配慮の必要な児童たちも楽しめました」「ワークショップを事前に行っていただいたのが非常に良かったと思っています。手話、歌に興味をもって当日行くことができました。また、ちょうど福祉について学習しているので、手話について詳しく知りたいと思うきっかけにもなっている子もいました」 家族や友達を誘って再度観劇する児童も多くみられ、繰り返し同じ演目を観劇することでの深め方や、タイプの異なる 2 演目を観ることで演劇の持つ幅や可能性をより体験してもらうことができた。子ども向けとしてだけでなく、大人も楽しめる内容である点もアンケートから読み取ることができた。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

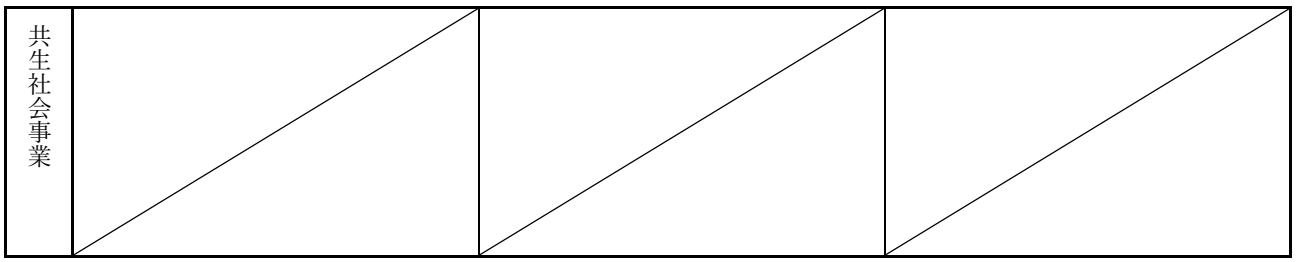
評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	観客の満足度	全主催公演事業でアンケート 4 段階評価上位 2 段階が 70%以上、アンケートで好評価を得る	劇場デビューを誘うプログラム 69.5%。子どもたちの観劇の機会を育むプログラム 93.3%。 ピアノと物語 93.1%。春休み音楽企画 86.4%。
	専門家による劇場プログラムへの評価	ヒアリングや評論等で概ね好評価を得る	公-2 の『夏の夜の夢』が令和８年度児童福祉文化賞を受賞。他の演目もアンケートで高評価を得た。
人材養成事業	育成対象者の研修後の反応 指導者による評価	アンケートで好評価を得る 成果と今後の課題を把握する	対象者より高評価を得た。
普及啓発事業	全事業の参加者数	全事業で参加者数の目標値を達成	・絵本の旅@カフェ、みんなの作業場、みんなのリトル高円寺をあわせた目標値 4,068 人　実績 4,099 人 ・大人のための演劇 WS のべ人数 目標値 200 人　実績 249 人 ・水曜日はチェーホフをのべ人数 目標値 160 人　実績 196 人
	参加者の反応	アンケートで「また実施してほしい」または「また参加したい」と回答する人が 60%以上	・大人のための演劇ワークショップにまた参加したい 100%。 ・水曜日はチェーホフにまた参加したい 100%。



（※３）・（※４）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	目標としていた観客の満足度の目標値を達成した（アンケート集計結果より）。世界をみよう！はわずかに目標値になりなかったが、子どもがアンケートに絵をかいて提出できる形もとっていたので設問に対する無回答の割合がおおく概ね満足度は高かったと考える。いずれの作品も子どもたちから楽しめ、また鑑賞サポートや廉価な劇場回数券「なみちけ」などにより、一般的に持たれがちな劇場特有な敷居の高さを感じさせない企画として評価された。 再演を重ねることで劇団のような実演芸術家団体化（カンパニー化）が進んだ。スタッフ・キャスト一人一人がレジデントアーティストとしての誇りをもち、劇場や地域に対する理解を深めたことは作品向上にもつながり、良質なレパートリー作品として観客に還元することができた。

人材養成事業	
自己評価	「アカデミーはまさに“生活”と言えるほど、濃厚な環境であった」「演劇の学びに留まらず、人とどう関わるのかを 2 年間を通し学んだと思う」「これから先のつながりの種を頂いた場所。そしてこれからここは自分の故郷と言える場所になるだろう」「アカデミー生一人一人と向き合ってくれる講師やスタッフに支えられた」など、実技だけでなく講義、そしてまた劇場の中にあるからこそ持ち合わせる視点や地域とのつながりも得られ、演劇を多角的に学べる貴重な学校であるという高評価を得た。 劇場創造アカデミーを修了した後、劇団を結成し活動を続けるものや、劇場のみならず高円寺で開催される多彩なお祭りにスタッフやキャストとして関わるなど、この事業は創造拠点として活動するアーティストを産み出し続けている。

普及啓発事業	
自己評価	「絵本の旅@カフェ」「みんなの作業場」「みんなのリトル高円寺」を通じて、観劇だけでない劇場の楽しみ方、過ごし方を参加者が自発的に体験することができた。「みんなのリトル高円寺」では美術を担当した根来美咲と松村あやが、可変性がある座・高円寺 1 という難しい空間を効果的に使った点で評価され、日本で唯一の舞台美術専門の賞である第 3 回伊藤熹朔記念賞の奨励賞を受賞した。 一般の大人を対象とした「大人のための演劇ワークショップ」と 65 歳以上を対象とした「水曜日はチェーホフを」は、松本修や木野花といった一線級の演出家の指導を受けられるとあって参加者の満足度がとても高かった。楽しくはありつつも、しっかりとした稽古を複数回続けて参加する大変さがあったと予想されるが、劇場スタッフや人材育成事業の修了生たちのフォローによって参加者が最後の発表まで継続できる環境をつくることができた。「大人のための演劇ワークショップ」の申し込みは 58 件と予想以上に多く、またそのうち区民からの申し込みは 34%あり、地域で年齢も経験も問わずに演劇をやりたいというニーズに答える事業を提供できた。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
・海外カンパニーの招聘作品数	5 作品	23 作品(『わたしのねがい』『ンカマ～とき～』『さあ！』、『明白歌』カフェ上映、戴飴霏展「邊界感 / Urban Boundaries」ギャラリーアソビバで展示。東京国際ろう芸術祭『オン・ザ・エッジ』『フィール・トゥゲザー百合』の上演。『インクルーシブなフィリピン文学の実現にむけて：フィリピン手話文学の認知』『手話のまちイマジナリー』をギャラリーアソビバにて展示。その他 14 作品の映画上映)
・海外アーティストとの共同制作作品数	４作品	４作品（『小さな王子さま』、提携公演『300 歳の誕生日』、東京国際ろう芸術祭『クロージングセレモニー』『ＳＩＧＮ ＳＬＡＭ』）
・観客の反応	アンケートで世界をみよう！海外作品を「また観たい」と回答する人が 60%以上	71%「劇場デビューを誘うプログラム」アンケートより
・海外学生インターンの受け入れ ・海外アーティスト見学者受け入れ	2 人以上 １人以上	1 人 3 人

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

成果報告書　　杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	（国際プレゼンスの向上）海外カンパニーの招へいは、主催公演の３作品に加え、提携公演の東京ろう芸術祭内の演目や展示、また劇場併設カフェやギャラリーを使った上映、展示作品など多岐にわたり実施することができた。文仁親王妃紀子殿下、秋篠宮佳子内親王殿下が東京ろう芸術祭にご出席されて海外展示作品等をご覧になる姿がニュースとなり、多くの方が座・高円寺や芸術祭の国際的な活動について知ることとなった。 （国際交流） 昨年に続きソウル芸術大学との協働で学生をインターンに迎え、制作スタッフと一緒に働き地域に根差した劇場ならではの体験をしてもらうことができた。シライケイタ芸術監督が以前カナダの芸術祭に参加していたことからカナダのカンパニーの見学があった。香港スケッチによる海外アーティストとの共同制作作品『300 歳の誕生日』では、香港のアーティストであるサンルーフ・ラウが美術・照明を務めた。同氏は座・高円寺の子ども向けのワークショップである「みんなの作業場」と連動して、『香港からこんにちは～影絵をつなごう！』で、お客さま（講師）として参加し地域の子どもたちと交流した。 （新たな創客への取組）「劇場デビューを誘うプログラム」や、大駱駝艦『うず　螺旋とリズム』、東京戯園館『起源論』などのノンバーバルな公演をプログラムに取り入れることで在住外国人や訪日外国人らの鑑賞に繋げた。劇場そのものに建築的な価値があり多くの外国人が劇場に訪れるが、ギャラリーや印象的な２つの螺旋階段、アーティストがデザインした過去公演のポスター展示、カフェ、沢山のチラシが眺められる道草カウンターなど、観劇チケットがなくても自由に回遊できるスペースを運営することで、新たな創客へとつなげた。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	
	・自由設定の観点（任意）（※3）	

（※2）・（※3）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
・ボランティアの数 (高円寺びっくり大道芸)	前年度実績＋10%	105 人（R6)、148 人（R7）＋40%
・団体鑑賞に参加する区内小学校数	区立小学校全 40 校、私立校 1 校	区立小学校 39 校、私立校 1 校（R7）
・団体鑑賞に参加する区内小学生人数	3000 人以上	3,894 人（R7）
・アウトリーチプログラムに参加する区内小学校数	小学校 5 校以上	4 校（R7）
・職場体験等の受け入れ数	5 校以上	6 校（R7）
・子ども対象通年ワークショップの区民参加率	60%以上	71.9%（R7）
・子ども対象通年ワークショップのリピート率	60%以上	61.4%（R7）
・貸館利用者における職員の対応に対する満足度	アンケート 5 段階評価上位 2 段階が 75%以上	87.5%（R7）
・ホール 2（貸館専用ホール）利用率	80%以上	85.4%（R7）
・阿波おどりホールの阿波おどり利用日	250 日以上	303 日（R7）

（※4）・（※5）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

成果報告書　　杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	（文化拠点） 様々なワークショップにおける参加者数や申し込み数の増加、地元最大のお祭りである阿波おどりの練習利用者数の多さは、観客という視点だけでなく自身が発表や発信ができる場所として劇場があることを実証し、様々な遊びや出会いを通じて自己の可能性を広げられる場としての公立劇場のあるべき姿を示した。2009 年の開館から地域の文化拠点として一貫した運営方針と持続性は、他地域のホール建て替えで新しく建設されるホールの利用市民団体から「自分たちの街にもこういった劇場が欲しいので話に来てほしい」とお呼びがかかるほどモデルケースとして注目され評価されている。そのような背景から、一般の利用者のみならずホール関係の見学者や授業の一環として文化行政を学ぶ学生が劇場に訪れている。 ＜地域連携＞ 設置者である杉並区や杉並区教育委員会をはじめとし、杉並区とパートナーシップを結んでいる東京高円寺阿波おどり振興協会や日本劇作家協会などと連携し地域との結びつきを強めている。また商店街と協働して行われるお祭りでのボランティア募集や地元中学生たちの職業体験では、街の人たちや劇場スタッフと交流し参加者が地域コミュニティに向けた新たな視点が芽生える機会ともなっており、積極的に受け入れを行っている。 （児童生徒への機会提供） ・小学生以上の子どもを主な対象とした作品を２つ創造して上演する事業「公-2」では、一般公演において中学生以下を無料にして、家庭の経済的負担を減らし、子どもたちの観劇を促進した。 また、一般公演に加えて、教育委員会と協力して、区立の小学校全校 39 校と私立校 1 校の 4 年生が劇場へ来て、団体鑑賞する公演を行い、児童への観劇の機会を提供した。列車の故障によるキャンセルが 1 校あったが、別の台風で来られなかった 1 校についてはフレキシブルに対応し、別の回で観劇してもらうことができた。希望校には、観劇後に舞台の裏側見学、出演者が学校へ出かけてワークショップを行うアウトリーチプログラムも行なった。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
・小さな子ども（未就学）と一緒に観ることのできる作品数	4 作品	4 作品（劇場デビューを誘うプログラム）
・中高生以下無料の作品数	2 作品	4 作品（子どもたちの観劇の機会を育むプログラム『小さな王子さま』、『夏の夜の夢』、提携公演『金鶏二番花』『またここか』）
・子ども（小学生）に向けたワークショップ数	年間 40 回	年間 47 回（みんなの作業場）
・青少年（中高生）に向けたワークショップ数	10 回	15 回（じっくりものづくり塾）
・シニア世代に向けたワークショップ数	10 回	12 回（水曜日はチェーホフを）
・域内外でのアウトリーチ事業の実施回数	30 回以上	31 回（主催公演によるワークショップ）
・当館以外での自主企画作品の実施作品数／会場数	7 作品／22 会場（のべ数）	7 作品／21 会場（「劇場デビューを誘うプログラム」8 会場、『小さな王子さま』1 会場、『夏の夜の夢』8 会場、『ジョルジュ』4 会場
・主催・提携公演における託児サービス設定日数	年間 50 日以上	年間 80 日設定
・主催事業におけるろうアーティストの起用	1 人	2 人
・ろう者の雇用	4 人以上	5 人
・人材養成事業におけるろうの講師の起用	1 人	2 人
・主催・提携公演における障害者割引の利用者数	150 人以上	262 人
・主催・提携公演における・参加海外アーティストの国籍数	7 か国	10 か国（デンマーク、フランス、モザンビーク、イタリア、ノルウェー、ア

		メリカ、メキシコ、中国、オーストラリア、台湾）
・主催・提携公演における鑑賞サポート作品	4 作品以上	9 作品（『小さな王子さま』、『夏の夜の夢』、ピアノと物語『トロイメライ』『ジョルジュ』、劇場創造アカデミー修了上演『11 人の少年』、音楽企画『風とう鹿』、提携公演『奴婢訓』『帰還の虹』『東京国際ろう芸術祭』）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	（アクセシビリティ）地域の視覚障害者団体、聴覚障害者団体と連携して障がいをもった方でも楽しめる舞台づくりを推進した結果、障がい者割引の利用が増加した。ろう者の中には障がい者割引を使わない方も見受けられ、実際にはもっと障がい者の参加が多かったと考える。また東京国際ろう芸術祭では障がい者割引の設定なかったので、その中でこの目標値を大きく超える利用者数は特筆すべき点である。 また障がいを持つ当事者たちを公演時のお客さまとして考えるだけでなく、日常の劇場運営から参画できるように５名のろう者に事務所で一緒に働いてもらったことは、ろう者の観客の安心となったのみならず劇場スタッフの意識変革の切っ掛けともなり、東京国際ろう芸術祭や劇場主催公演の成功に繋がった。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	・〈持続可能性、創造的循環〉持続可能な運営のために、協賛金・寄付金の獲得に努める。また舞台芸術の創造、育成における環境について考え、人と文化が循環する場づくりを目指す。 ・ ・

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
・協賛金寄付金獲得件数	40 件	58 件
・人材養成事業の育成修了者の雇用	3 人	8 人
・普及啓発事業過去参加者が、劇場事業に参画する人数	10 人	14 人
・持続可能なレパートリー作品数	4 作品	5 作品
・アカデミー公開授業の数	20 講座　参加者 300 人	18 講座　参加者 389 人

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	（持続可能な経営） ・指定管理料だけに頼らず、毎年協賛金の獲得に努めているが、令和７年度は、目標数を超える企業や個人から協賛金を得ることができた。 （持続可能な人的循環） ・人材養成事業「劇場創造アカデミー」の育成修了者を雇用したり、開館以来毎週日曜日に小学生を対象に行っているワークショップ「みんなの作業場」に参加した子どもたちが、中学生や高校生、大学生になって、他の事業の参画に加わったり、アルバイトスタッフとして事業の運営の補助をするなど、人材の循環が行われている。この劇場で様々な体験をし、演劇や文化行政を学ぶ大学に進んだ学生たちも見受けられた。

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。
公-2 の『小さな王子さま』『夏の夜の夢』では舞台手話通訳も取り入れたが、両演目の特性にあわせて通訳者（田中結夏）が舞台の袖で通訳を行うパターンと、舞台に入り込んで出演者の一人として演技をしながら通訳を行うという２つの形をとった。またその通訳を務めていた田中は座・高円寺劇場創造アカデミー在籍時にろう者の受講生と出会い手話を始めていた。数年経ち経験を手話通訳者として経験を重ねてこの劇場に戻ってきたという事実は、貸館だけでなく様々な形で事業をリンクさせて展開を続けてきた座・高円寺が描いていた夢を実現しているようだった。またその田中と『夏の夜の夢』出演者であるろう俳優の西脇将伍を講師に迎えて、公演と絡めて劇場創造アカデミー特別講座『舞台上の手話を考える～臨場感のある舞台と手話』を開催し、手話表現に興味を持つ方が多角的に学びと体験できる場を提供した。飛行機に乗って遠方から参加する方もいて、ろう者との協働に対する取り組みに対する注目度の高さを感じた。公演では（特定の回だけではなく）一般公演回全 9 ステージで字幕タブレットの貸し出しを行ったこともあり多数のろう者が観劇した。こうした活動から劇場に対する期待感はデフリンピックを前にしてろう文化を知ろうという機運の上昇とも連動し、東京国際ろう芸術祭につながった。また劇場事務所でろう者のスタッフを雇うことで、職員が日常からろう文化やろう者の考え方や手話を学ぶ機会となり、一過性で終わらない仕組みを劇場の中に取り入れることができた。

（２）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※１）・（※２）…Ｒ７年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※１）	獲得に努めている。	メルマガ 3,837 人 X のフォロワー2362 人 インスタグラム 296 人
目標(値)（※２）		HP のリニューアル メルマガ 4,000 人 X のフォロワー2,500 人 インスタグラム 500 人
実績(値)		HP のリニューアルを行った。 メルマガ 4,600 人（3/18 時点） X のフォロワー2,616 人(4/13 時点） インスタグラム 1,148 人（4/13 時点）
団体の自己評価		媒体によって特色を活かした広報展開を行い、いずれも目標値を超えることができた。3 月末で当法人は座・高円寺の指定管理期間を満了となったが、HP は次の団体に引き継げるものとし、今後の劇場運営、発展にも繋げた。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	レパートリー公演等を通じて他館との連携を行っている。	人材や財源の確保を行っている。
目標(値)（※2）	5館以上	
実績(値)	7作品／21会場(「劇場デビューを誘うプログラム」のべ8会場、『小さな王子さま』1会場、『夏の夜の夢』8会場、『ジョルジュ』4会場で公演	
団体の自己評価	何度でも旅公演のできるレパートリー作品を抱えている劇場だと自負しており、常に他館との協働の間口を広げる努力をしている。他劇場の良い点を発見し見習うことは担当職員のスキルアップになり、延いては当館の魅力にもなった。	

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ) ～ (セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	シライケイタ芸術監督を配置している。	配置されている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	専門人材の確保や育成に努めている。	役割分担されている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	人材確保を行っている。	努めている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	推進している。	コンプライアンス順守規定を策定し、順守している。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	研修をおこなっている。	契約書を交わしている。
目標(値)（※2）		
実績(値)		
団体の自己評価		

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
◆R7 年度は、当館のミッションやビジョンを踏まえた自主事業を展開した。 公演事業の実績記録→S ①　創造性・企画性　公演事業→A、人材養成事業→S、普及啓発事業→ S ②　国際性→A ③　地域文化拠点機能→ S ④　多様性とアクセシビリティ→S ⑤　自由設定→ S 以上の評定の結果、すべての活動において、概ね当初の目標を達成することができたと言える。 ◆公演事業においては、地域のニーズを踏まえ、社会問題視されている体験格差を減らすべく各プログラムに取り組んだ。「劇場デビューを誘うプログラム」は、ノンバーバルの作品を集め、小さなお子様連れのご家族でも気軽に観劇できる会場づくりや、大人でも子どもでも利用できる廉価なセット券で来場を促し、「1 才の子どもと来ましたが、リズムに乗って楽しそうに観ていました！大人も楽しく、あっという間でした。またぜひ親子で鑑賞したいです」という感想をいただいた。「子どもたちの観劇の機会を育むプログラム」では家庭環境や経済状況によって左右されないように中学生以下無料とした。また障がいの有無に関係なく楽しめるように舞台手話通訳、字幕タブレットレンタル、事前説明会など鑑賞サポートに取り組み、「聴こえる、聴こえない人全てが楽しめてとても良かったです。このような作品が当り前になるとよいですね‼」という声もきかれた。全体的に観客の満足度も高い上に、健常者にバリアフリーの大切さを届ける点においても独自性の高い事業であった。 ◆人材養成事業では、講師からとったアンケートより「演技基礎、実習、そして修了上演と、演技を 2 年間で学ぶ環境が劇場内で整っている上に、歌舞伎、能、狂言などの伝統芸能や、ドラマトゥルク、応用演劇、企画制作実習、パフォーマンス概論等の研究や講義が並走し、演劇を横断的に学ぶことが出来る、国内において数少ない学校である。また、地域との連携を行う劇場企画にアカデミー生が参加することで、社会と演劇を繋ぐ視野を広げ、将来において彼らが演劇という文化をそれぞれの場で活用するヒントや道筋を見せている」と評価された。 ◆公演事業の出演者を人材養成事業や普及活動事業の講師として起用、「劇場創造アカデミー」修了後にプロのスタッフ・キャストとして雇用、普及啓発事業に参加していた子どもたちが大きくなって他の事業にスタッフとして参画するなど、一つ一つの事業で完結せずに有機的に繋がるような運営を心掛け人と文化が循環する持続可能な場づくりを目指した。

備考